

宋歌, 木山幸子

要旨

中国語には文末助詞（語気助詞）が豊富に存在し、対人関係調整機能を有すると考えられている。話し手が自身の態度に応じて複数の文末助詞の中からどれを選ぶかは、任意でありながらも一定の典型性があると考えられる。代表的な文末助詞では、「吧 (-ba)」は聞き手のことを言及する命題に付きやすく、「呢 (-ne)」は話し手自身のことを言及する命題内容に付されやすく、「啊 (-a)」は命題内容に左右されにくい幅広く付加可能な文末助詞だとされている。しかし、これまで文末助詞の使用傾向に関連する実証的なデータに基づく検討は皆無とあってよい。本研究は、実際の対人コミュニケーションの場面で、命題内容に応じて各世代・性別の中国語話者がどのように文末助詞を選んで発話するかを、口頭談話完成タスクによって調査した。決定木分析を行った結果、命題内容、性別、世代という3要因のうち、命題内容という言語的要因が文末助詞の産出をもっとも強く決定づけていることがわかった。また、性別と世代という社会的属性の要因は、とくに話し手言及の発話において文末助詞の選択に有意に影響しており、聞き手言及と人物言及なしの発話では有意な影響は見られなかった。文末助詞の選択は、とくに話し手の内容に言及する際に、個人差がより大きくなりやすいことを示唆している。

1. はじめに

東アジア言語では、文末、すなわち述部の右側周辺部に話し手の命題に対する態度や感情伝達の要素が頻繁に使われる。東アジア言語圏における特有の言語現象としての文末助詞は、文の中で文法的役割ともに対人モダリティを表す機能語として働くとされている。中国語においても、文末助詞（語気助詞）が豊富に存在し、話者の表現意図や感情を表し（Chao, 1968; 劉 1983）、対人関係調整機能を有するという（Chu, 2009）。文末助詞の使い方ひとつで人間関係が大きく左右されることもある。例えば「ノートパソコンを何台持っていますか？」と尋ねられたとき、答えとして「我有3台（私は3台持っている）」と事実のみを言えば中立的な返答であるが、その文末に文末助詞をつけて「我有3台呢（私は3台持っている-ne）」という、意図せずとも自慢のニュアンスが生じ、相手を不愉快にさせてしまう恐れがある。適切な文末助詞の選択は、話し手と聞き手の対人関係の構築に欠かせないだろう。

文末助詞は、文の命題の真偽状態を左右するものではない（Li & Thompson, 1989）。文の命題内容に対して話し手が自身の態度や感情を表すためにどの文末助詞を選択するかは、任意でありながら一定の典型性があると考えられる。以下に、中国語で代表的な3つの文末助詞の典型的な使用例を示す。

- (1) 你 去 吃 饭 吧。
2SG go eat meal SFP
「あなたはご飯を食べに行く吧。」
- (2) 我 还 得 写 作业 呢。
1SG still have do homework SFP
「私は宿題をしなければならない呢。」
- (3) 天气 真好 啊。
Weather nice SFP
「天気がいい啊。」

注. 1SG: 一人称単数; 2SG: 二人称単数; SFP: 文末助詞。

(1) のように、「吧 (-ba)」の使用により、話し手は聞き手の気持ちを考慮する態度を示唆する (Lu, 2005; Lee-Wong, 1998)。したがって「吧 (-ba)」は、聞き手に言及する命題内容に選ばれやすいと考えられる。一方、(2) の「呢 (-ne)」は、典型的に話し手自身のことを言及する命題内容に付されやすく、話し手の一方的言明と見なされる (Wu, 2009)。さらに、(3) の「啊 (-a)」は、基本的には感動・興奮・驚きなど様々な感情を表す感嘆詞として扱われ、幅広い範囲で頻出する (Wu, 2004)。したがって「啊 (-a)」は、命題内容を問わず比較的自由に使えるようである。しかし、これまでの中国語の文末助詞の先行研究は研究者の主観的経験によるものが多く、中国語の文末助詞の実際の使用傾向に関連する実証的なデータに基づく検討はまだ行われていない。

対人モダリティ要素である文末助詞が、聞き手との関係を維持するという社会的営みを成立させるために働いていると考えるなら、話し手の社会的属性 —性別や年齢等— がその産出のあり方に関わっていると予想される。大半の文化では、女性のほうが男性より丁寧で標準的な言語表現をとる傾向にあるという (Holmes, 1995)。中国語は、日本語のように語彙の選択に排他的な性差は認められないが、相対的な選好の差はある (Farris, 1988)。中国語の文末助詞に関する性差の研究として、曹 (1987) は、文学作品を資料として語彙選択の性差を分析している。その結果、陳述文と感嘆文においては文末助詞の使用率は男女ともに同程度であるのに対して、疑問文と命令文においては男性に比べ女性のほうがより多く使用していたことを報告している。

また、同じ世代に生まれた人たちは、同一の時代背景のもとで歴史的・社会的経験を共有することにより、価値観やそれに基づく行動様式に一定の共通性を持つようになると考えられる (Romaine, 1984)。したがって、話し手の年代に応じて対人配慮行動の実現の仕方に対する価値観は異なり、文末助詞の選択の仕方も異なる可能性が考えられる。

そこで本研究は、実際の対人コミュニケーションの場面で、命題内容と話し手の各世代・性別といった社会的属性に応じて、中国語の普通話話者がどのような文末助詞を選んで発話するかを、口頭談話完成タスクによって調査する。上述の先行研究に照らして、以下の2つの仮説を設ける。

仮説 1: 文末助詞の選択は、命題内容が誰 (何) に言及しているかに応じて変わる。聞き手言及の発話においては「吧 (-ba)」が典型的に選択され、話し手言及の発話においては「呢 (-ne)」が典型的に選択され、人物に言及しない発話においては「啊 (-a)」が典型的に選択される。

仮説 2: 文末助詞の選択は、話し手の社会的属性に応じて変わる。上記の仮説 1 で記した選択の傾向には、性差と世代差が見られる。

2. 方法

2.1. 実験参加者

若年層の中国語母語話者 40 名 (男性 20 名、平均年齢: 22.2 歳、標準偏差 3.1、範囲: 18-29 歳) と中年層の中国語母語話者 40 名 (男性 20 名、平均年齢: 55.0 歳、標準偏差 2.4、範囲: 51-60 歳) が本実験に参加した。

実験実施前に、全員に対して研究の目的、方法等を説明し、各参加者には参加の同意を得た。実験後には謝金を支払った。本実験は、東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会承認を受けて実施した。

2.2. 刺激材料

表 1 の通りに談話完成タスクを構成した。「1. 場面説明」、「2. 視点提示」、「3. 未完成発話文」は談話の構成要素であり、その後の「4. 質問」は、その前の談話の内容を正しく理解したかどうかを確認するために設けたものである。談話の文脈としては、聞き手言及 (助言)、話し手言及 (宣言)、そして人物言及なし (感嘆) の 3 種類を設けた。まず参加者 (「あなた」) と架空の聞き手 (「明さん」) を登場させ両者が置かれる場面状況を説明し (1. 場面説明)、続いて参加者自身が話し手になるという視点を提示した (2. 視点提示) うえで、文末助詞をつけて完成させるべき発話文を示した (3. 未完成発話文)。ここでは、最後につけるべき文末助詞 1 つ分の空欄を設けた。刺激材料の全体にわたって、性別、上下、

表 1. 中国語普通話の発話産出実験の刺激の例と日本語訳

	聞き手言及命題（助言）	話し手言及命題（宣言）	人物言及なし命題（感嘆）
1. 場面説明	<p>你和小明，在商店里。</p> <p>小明找不到出售电源插座的货架。</p> <p>你认为小明可以问下收银员商品在哪里。</p> <p>あなたと明さんは、商店にいる。</p> <p>明さんは、コンセントが置いてある商品棚を見つけれない。</p> <p>あなたは、明さんがレジ係に商品の位置を聞けばいいと思う。</p>	<p>你和小明，在超市里。</p> <p>小明说：你今天是第一次来这家超市吧。</p> <p>实际上，你来过这里很多次了。</p> <p>あなたと明さんは、スーパーにいる。</p> <p>明さんは、あなたが今日初めてこのスーパーに来たよねと言った。</p> <p>実際、あなたは何度もここに来たことがある。</p>	<p>你，在一家水果超市里。</p> <p>超市里摆满了各种各样的热带水果。</p> <p>你认为超市的水果种类非常丰富。</p> <p>あなたは、果物スーパーにいる。</p> <p>スーパーには、さまざまなトロピカルフルーツが並んでいる。</p> <p>あなたは、スーパーの果物の種類が豊富だと思う。</p>
2. 視点提示	<p>接下来，你对小明说道：</p> <p>次に、あなたが明さんに言うセリフ：</p>	<p>接下来，你对小明说道：</p> <p>次に、あなたが明さんに言うセリフ：</p>	<p>接下来，你对小明说道：</p> <p>次に、あなたが明さんに言うセリフ：</p>
3. 未完成発話文（文末助詞誘発）	<p>你去问下收银员（ ）。</p> <p>あなたはレジ係に聞きに行く（ ）。</p>	<p>我来这里好多次了（ ）。</p> <p>私は何度もここに来たことがある（ ）。</p>	<p>水果的种类真丰富（ ）。</p> <p>果物の種類が豊富だ（ ）。</p>
4. 内容理解確認質問	<p>小明想买的是电灯泡吗？（是・否）</p> <p>明さんが買いたいのは電球ですか？（はい・いいえ）</p>	<p>你在超市里吗？（是・否）</p> <p>あなたはスーパーにいますか？（はい・いいえ）</p>	<p>超市的蔬菜种类丰富吗？（是・否）</p> <p>スーパーで種類が豊富なのは野菜ですか？（はい・いいえ）</p>

親疎関係を区別しない人同士の日常会話を用意した（聞き手の名前は、男女どちらでも可能な名前を使用した）。また、各場面における「発話文」の発話行為を統一し、聞き手言及の場面は「助言」、話し手言及の場面は「宣言」、人物言及なしの場面は「感嘆」の内容とした。命題内容の各条件につき 8 場面、合計 24 場面を用意した。

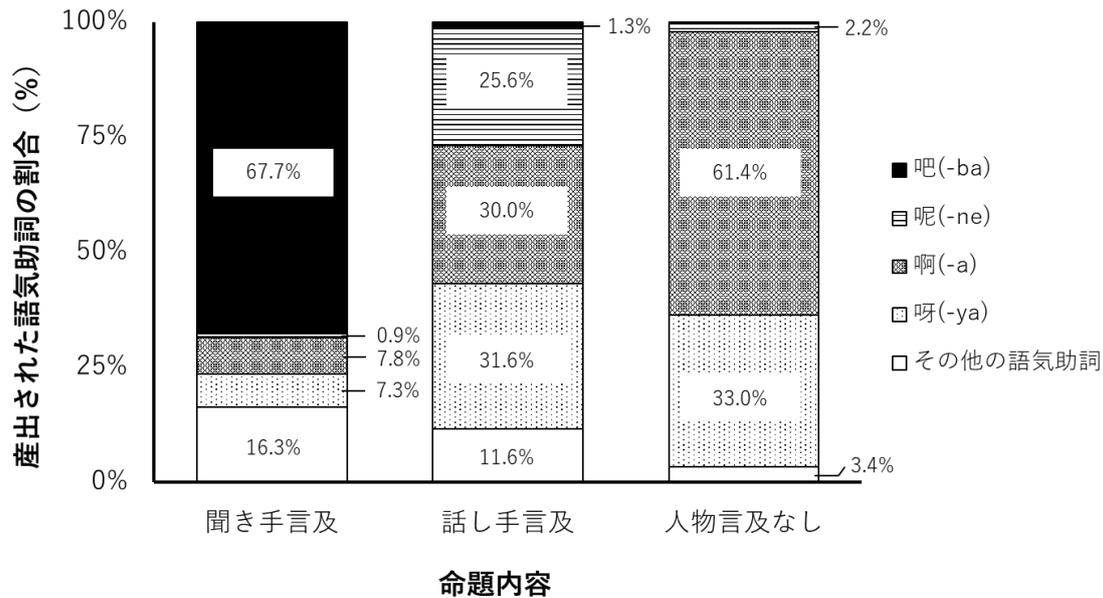
2.3. 実験手続き

実験は Tencent ミーティングを用いてオンラインで実施した。各参加者は、安静でインターネット環境が安定している部屋で実験に参加した。参加者には、画面に視覚提示された文章を読み、文脈の内容を理解するよう求めた。その後「未完成発話文」が末尾に空欄付きで提示されたところで、その発話文について実際に自分がその場にいたらどのように言うか、末尾に文末助詞 1 つをつけて発話するよう求めた。参加者が文脈全体に注意するように、すべての試行の最後で場面説明に関する内容理解を問う質問を呈示し、「はい」または「いいえ」を口頭で答えるよう求めた。本試行開始前に、練習施行を数回設けた上で、実験本番ではすべての刺激談話をランダムに提示した。刺激呈示は Microsoft PowerPoint 2021 を用い、各試行の「場面説明」から「内容理解確認質問」までを、画面自動切り替えの機能を使って提示した。

2.4. 分析

文末助詞の産出に影響を与える複数の要因の交互作用を調べるために、決定木分析（Decision Tree Analysis）を行った。ここでは、文末助詞の産出を決める要因として、「命題内容」、「性別」と「世代」

図 1. 全参加者における命題内容による産出された文末助詞の割合 (N = 80; 男性 40 名、女性 40 名)



を含めた。3 (聞き手言及命題、話し手言及命題、人物言及なし命題) × 2 (男性、女性) × 2 (若年層、中年層) のデザインで独立変数を配置し、従属変数は産出された文末助詞の頻度とした。決定木モデルを構築するために、R version 4.2.0 (R Core Team 2022) 上でパッケージ rpart (Therneau, Atkinson, & Ripley, 2017) 及び partykit (Hothorn & Zeileis, 2015) を用いた。有意水準を $\alpha = 0.05$ とした。

3. 結果

3.1. 正答率

内容理解確認質問の正答率は、若年層で平均 94.2% (標準偏差 6.0)、中年層で平均 91.5% (標準偏差 6.5) であった。全参加者が課題に集中し各談話の内容をよく理解したとみなせる。

3.2. 文末助詞の産出割合

全参加者 80 名において、各命題内容の条件に応じた文末助詞選択の割合を図 1 で示す。聞き手言及発話では、「吧 (-ba)」(67.7%) の産出割合が最も高く、話し手言及発話では、「呀 (-ya)」(31.6%) の産出割合が最も高く、人物言及なし発話では、「啊 (-a)」(61.4%) の産出割合が最も高かった。性別と世代に応じた産出割合は、表 2 に示した。このデータを用いて決定木分析を実施した。その結果、図 2 のように、文末助詞の選択に及ぼす命題内容、性別、世代という 3 つの要因の影響の順位がみてとれる。3 つの要因のうち、発話の命題内容という言語的文脈上の要因が文末助詞の産出を最も強く決定づけていた。また性別や世代という社会的属性の要因は、話し手言及の命題においてのみ認められた。聞き手言及の発話には、性別や世代にかかわらず「吧 (-ba)」(67.7%) が最も多く産出された (ノード 2)。人物言及なしの発話においては、「啊 (-a)」(61.4%) が最も多く産出された (ノード 9)。それに対して話し手言及の発話で選択される文末助詞については、男性は「啊 (-a)」の産出比率が最も高い (38.1%、ノード 8) のに対して、女性では若年層か中年層かといった世代の要因に応じて傾向が有意に異なっていた。若年層の女性は「呢 (-ne)」の使用比率が最も高く (41.3%、ノード 6)、中年層女性は「呀 (-ya)」の使用比率が最も高かった (38.1%、ノード 7)。

4. 考察

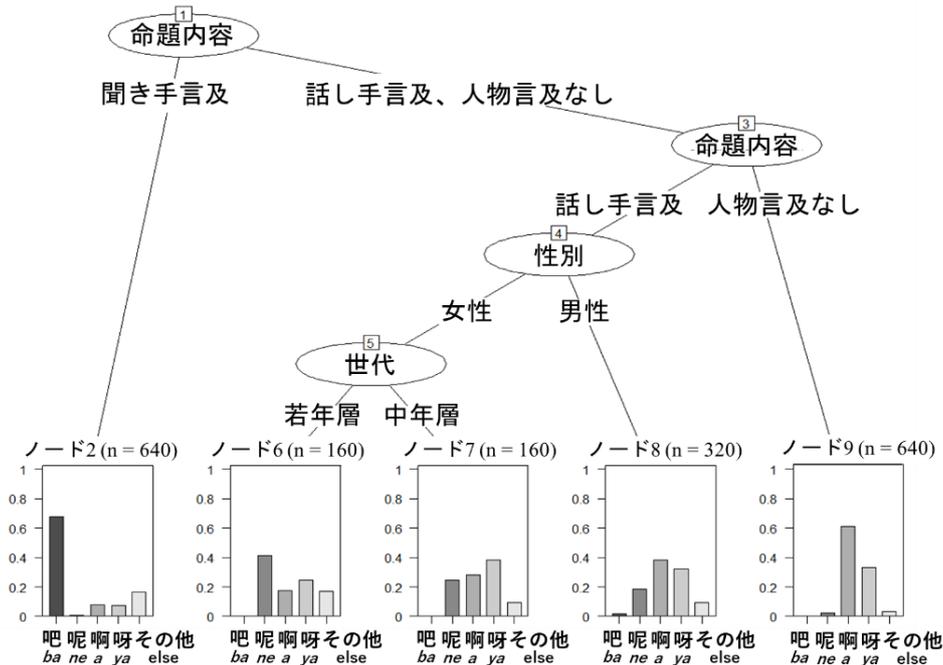
本研究で検証した 2 つの仮説のうち、1 つ目の命題内容に応じて選択されやすい文末助詞が変わるといふ仮説は支持された。2 つ目の話し手の社会的属性が文末助詞の選択に影響するといふ仮説は一部支持され、話し手言及発話においてのみ有意な影響が見られた。聞き手言及の発話で「吧 (-ba)」の割合が最も高く、人物言及なしの発話で「啊 (-a)」の割合が最も高かったことは予測通りであった。しかし、

表 2. 性別と世代に応じた文末助詞産出の割合 (%)

	若年層					中年層				
	吧	呢	啊	呀	その他	吧	呢	啊	呀	その他
女性										
聞き手言及命題	59.4	3.1	5.6	8.1	23.8	78.1	0.0	8.8	6.3	6.9
話し手言及命題	0.0	41.3	17.5	24.4	16.9	1.9	24.4	26.3	38.1	9.4
人物言及なし命題	0.0	4.4	63.1	26.3	6.3	0.0	0.0	61.3	35.6	3.1
男性										
聞き手言及命題	56.9	0.6	11.3	8.1	23.1	76.3	0.0	5.6	6.9	11.3
話し手言及命題	1.9	25.0	35.6	28.1	9.4	1.3	11.9	40.6	35.6	10.6
人物言及なし命題	0.0	3.1	59.4	34.4	3.1	0.0	1.3	61.9	35.6	1.3

注. 若年層女性 (n = 20)、中年層女性 (n = 20)、若年層男性 (n = 20)、中年層男性 (n = 20)。

図 2. 命題内容、性別と世代による文末助詞の産出に関する決定木分析の結果



話し手言及の発話では一概に「呢 (-ne)」が選択されやすいとはいえず、若年層女性のみ好まれており、中年層女性は「呢 (-ne)」より「呀 (-ya)」、男性は「啊 (-a)」を好む傾向が見られた。

このように、文末助詞の選択においては、命題内容という言語的文脈上の要因が最も決定的であり、社会的属性の要因を凌ぐことが確かめられた。とくに、聞き手言及と人物言及なしでは文末助詞の選択に社会的属性の影響を受けにくいのに対して、話し手言及においてはそれらの要因の影響を強く受ける傾向が示された。

聞き手の事柄に言及するということは、聞き手の領域に入り込むことになる。自分以外の他者の領域に入る場合の作法は典型性が強く、社会的属性の影響を受けにくいのかもかもしれない。中国語の文末助詞「吧 (-ba)」は、命題の内容の接近度は話し手より聞き手に近く (Han, 1988)、話し手が聞き手に共通理解を要求し、口調を和らげ聞き手に対する心理的負担を軽減する働きがある (Lu, 2005)。そのため、聞き手言及の発話で選択すべき典型的な文末助詞として、「吧 (-ba)」がどの世代と性別においても高い割合で選択されたと考えられる。

一方、話し手の事柄に言及するということは、他者の領域に踏み込まずに話し手が自分自身の事柄を

自由に表現できる状況だと考えられる。そのため、社会的属性に応じて文末助詞選択の多様性が生じたのかもしれない。若年女性に多く選ばれた「呢 (-ne)」は、それが付される情報は話し手の管理下であり、話し手の一方的言明だと見なされている (Wu, 2009)。それに加え、独話や独話に近い文で用いることが可能である「啊 (-a)」や「呀 (-ya) (「啊 (-a)」の音変)」なども、類似の機能を持つと考えられる (Chu, 2002)。これらの多様な文末助詞が高い自由度で話し手の自己表現に供されていることがうかがえる。

しかし、本調査の限界は、性別と世代で分けた群のそれぞれにおいて、出身地域が一様でなく、群によって各生育地の比率が異なっていた。付録に示したとおり、本調査の参加者の生育地の要因を含んで決定木分析を行うと、話し手言及の命題における文末助詞の選択において、世代の要因の代わりに生育地の要因の有意な影響が認められている。次の課題として、参加者の性、世代で分ける群において生育地のバランスを統制しながら、文末助詞の使用傾向についてより厳密な結果を示すことが求められる。

以上のように、本研究の調査では、対人コミュニケーションの場面での文末助詞の産出にあたって、聞き手言及と人物言及なしの発話では一貫した使用傾向が見られるものの、話し手言及発話での文末助詞の選好は、話し手の社会的属性に影響されやすいことを例証した。話し手が自分自身を表現する際の態度の表明の仕方は、より自由度が高く、個人差が表れやすいことを示唆している。

謝辞

本研究は、日本科学協会の笹川科学研究助成 (2022 年度)、および日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (A) (課題番号 19H00532) の助成を受けて行った。

引用文献

- 曹志贇 (1987) 「语气词运用的性别差异」『語文研究』 3: 43-45. [曹志贇 (1987) 「語氣助詞使用上の性別の差異」『語文研究』 3: 43-45.]
- Chao, Y. R. (1968). *A grammar of spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Chu, C. (2009). Relevance and the discourse functions of Mandarin utterance-final modality particles. *Language and Linguistics Compass*, 3(1), 282-299.
- Chu, C. C. (2002). Relevance theory, discourse markers and the Mandarin utterance-final particle *a/ya*. *Journal of the Chinese Language Teachers Association*, 37(1), 1-42.
- Farris, C. S. (1988). Gender and grammar in Chinese: With implications for language universals. *Modern China*, 14(3), 277-308.
- Han, Y. (1988). *A pragmatic study of some sentence-final and post-verbal particles in Mandarin Chinese*. Doctoral dissertation, York University.
- Holmes, J. (1995). *Women, Men and Politeness*. London: Longman.
- Lee-Wong, S. M. (1998). Face support - Chinese particles as mitigators: A study of *ba a/ya* and *ne*. *Pragmatics*, 8(3): 387-404.
- Li, C. N., & Thompson, S. A. (1989). *Mandarin Chinese: A functional reference grammar*. University of California Press.
- 劉月華・潘文娉・故韡 (1983) 『現代中国語文法総覧』東京: くらしお出版.
- Lu, W. Y. (2005). *Sentence-final particles as attitude markers in Mandarin Chinese* (Doctoral dissertation). University of Illinois at Urbana-Champaign.
- Romaine, S. (1984). *The language of children and adolescents*. Oxford: Blackwell.
- Wu, G. (2009). A unified account of the discourse function of the Chinese particle “ne”. *Macrolinguistics*, 3(3): 1-25.
- Wu, R. J. (2004). *Stance in talk: A conversation analysis of Mandarin final particles*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

付録：参加者の出身地域の要因を含む決定木分析の結果

参加者の生育地が文末助詞の産出に与える影響を調べるために、文末助詞の産出を決める要因として、「命題内容」「性別」「世代」以外に、「地域」も含めて決定木分析を実施した。3（聞き手言及命題、話し手言及命題、人物言及なし命題）×2（男性、女性）×2（若年層、中年層）×6（華中地方、華東地方、華北地方、西北部、西南部、華南地方）のデザインで独立変数を配置し、従属変数は産出された文末助詞の頻度であった。その結果は、図3に示すとおりである。話し手言及発話での文末助詞の選好は、性別や世代とともに地域差にも影響されることを示唆している。

図3. 命題内容、性別、世代と地域による中国語文末助詞の産出に関する決定木分析の結果

